

太平洋北区栽培漁業漁場 資源生態調査 (要約)

小川 弘毅・早川 豊

ヒラメについて

- 1) 仔魚は、7月上旬体長11mmのものが、水深20m以浅の沿岸部に浮遊。表面水温は、16.1~16.9℃、塩分範囲は32.863~33.190‰。食性は橈脚類であった。
- 2) 稚魚は7~9月頃、体長2.4~5.3cmのものが沿岸の河口域に出現。食性は体長5cmまではアミ類を捕食、体長5cm以上でコチ、ハゼ類を一部捕食、体長10cmで完全な魚食性となった。
- 3) 若魚は、春産卵親魚を追って湾内へ侵入、夏は湾内や、湾外の深部で停滞、秋期になるとイワン類の群れを追って湾内奥部まで侵入、冬期はまた大部分が湾外水深100m付近の深部へ移動。
- 4) 成魚は春の産卵期に日本海側より回遊、湾内で一部産卵。その他の時期は湾内での分布は少ない。
- 5) 産卵盛期は、6月下旬~7月上旬で生物学的最小形は、全長雄34.8cm、雌45.2cmであった。

イシガレイについて

- 1) 仔魚は2~3月水深30m以浅の砂泥場へ着底底生移行。食性は橈脚類、多毛類幼生であった。
- 2) 稚魚は4~5月頃、波打際へ集まる。9月頃より、成長の良いものから順に沖台へ移動。食性は、小型二枚貝、アミ類、端脚類である。浜奥内地先における6月の現存量は1.6個体/m²であった。
- 3) 若魚は、水深1~20mの砂礫~小石場に生息。食餌の主体は小型二枚貝であった。
- 4) 成魚は、大湊沖水深30~40m付近に濃密域を形成。産卵期には東湾各沿岸の小石、砂礫場へ接岸し産卵する。西湾では冬期に日本海系群の移入が認められる。食性は貝類、オカメブンプクであった。
- 5) 産卵盛期は、11月中旬~12月上旬で、生物学的最小形は全長、雄24.1、雌24.7cmであった。

マコガレイについて

- 1) 仔魚は2~3月、水深30m以深の泥~砂泥場へ着底底生移行。食性は橈脚類、多毛類幼生等であった。
- 2) 稚魚は9月頃まで着底場所で生育、その後若魚の生息域と混じる。食性は多毛類主体であった。
- 3) 若魚は湾内全域に分布。春と秋は水深5m付近まで接岸。食性は多毛類、クモヒトデ類主体であった。
- 4) 成魚は東湾全域に分布。産卵期には東湾および青森湾各沿岸の砂礫、小石場へ接岸。また西湾では冬期に日本海系群の移入が認められる。食性は春はキセワタガイ主体、夏は多毛類主体、接岸期の秋はクモヒトデ類、等脚類、貝類等、冬はキセワタガイ、ヒトデ類、イソギンチャク類等であった。



詳細は、昭和48年度太平洋北区栽培漁業漁場資源生態調査結果報告書(昭和49年2月)青森県水産増殖センターに報告済み。

- 5) 産卵盛期は、湾内種は11月下旬～12月中旬、日本海系群は3月下旬～4月中旬。生物学的最小形は、湾内種全長、雄19.9、雌23.6cm、日本海系群全長、雄25.6、雌27.3cmであった。産卵親魚の年令は、湾内種は2～4年魚、日本海系群は3～6年魚であった。

ソイ、メバル類について

早川 豊・小川 弘毅

A) クロソイについて

- 1) 仔魚とは、産仔後表層を浮游生活し、沿岸域に生息する以前の全長3cm未満のもの。7月上旬には全長6～25mmのソイ、メバル類の仔魚が水深20m以浅の藻場、岩礁地帯に接する所に多く出現し、また、2月上旬には陸奥東湾で全長9～26mmのアイナメ稚魚のみが、水深20～30mの沖台に多く出現した。いずれもコペポード類などの動物プランクトンを主食としていた。
- 2) 稚魚とは、沿岸の藻場、岩礁地帯に生息し、満1年前後の全長6～12cm前後のもの。5月下旬から11月にかけて水深10m以浅のアマモ類の優占する砂、小砂利、転石地帯に多く出現し、アミ、エビジャコ、モエビ、ワレカラ、ヨコエビ、ヤドカリ類などの小甲殻類を主食とし、他の稚仔魚も捕食する。アイナメ、クロダイ、ギスカジカ稚魚、マハゼ、ニクハゼ、アサヒアナハゼなどが餌の競合種となる。
- 3) 若魚とは、生物学的最小形以前の生後満1～2年位の全長8～18cm前後のもの。全長13cm位までは稚魚と同じ場所に生息し、15cm以上になるとやや沖の根に移動する。稚魚と同様の食性を示すが、成長に伴ない魚食性となり、空胃率も高くなってゆく。
- 4) 成魚とは、生物学的最小形以上のもの。全長18cmで生殖巣が認められた。藻場では見られず、岩礁に続く根や、沖の根に多く生息する。多少甲殻類も捕食するが、魚食性が強く、イワシ類、イカナゴ、その他の魚類を多く捕食する。移動の有無は明確でない。
- 5) 全長は生後満3年位までは直線的成長し、20～25cm位になるが、その後は緩慢となり、体重の増加が著しい。
- 6) 産卵期は5～6月、全長40cm前後の5～7年魚で平均14～25万尾位の仔魚を産出する。

B) メバル類、その他のソイ類について

- 1) 仔魚の分布生態、食性などはクロソイに類似する。
- 2) メバル稚魚はクロソイ稚魚に類似する分布生態を示すが、他のメバル類は藻場では少なく、そのやや沖の根や転石地帯、ホタテ施設に見られる。食性はクロソイ稚魚に類似する。
- 3) 若魚は岩礁に続く根、転石地帯に多く、食性は甲殻類を主とした雑食性。
- 4) 成魚の分布生態はクロソイ成魚とほぼ類似するが、明確でない。食性は若魚とほぼ同じ。
- 5) メバル、キツネメバルの成長はクロソイに較べてかなり劣り、生後満3年で全長18～20cm前後である。
- 6) 産卵期はメバルが12～2月、ウスメバルが4～5月、キツネメバルが4～6月と思われるが明確でない。産卵生態についてはほとんど不明である。